

研究班番号【13】  
幼少期に受ける親の行動の重要性

保健班:王 みつき、川島 美紗、戸川 こはる

### Abstract

The purpose of this research is to clarify how we can build good relationships with our children when we become adults in the future. We then focused on what kind of "action" we should take regarding this issue.

The survey revealed that the behaviors that make people feel love can be divided into the extraordinary, ordinary, easy to feel love, and hard to feel love. Based on this classification and the results of the questionnaire, it was found that daily activities and behaviors that make it easier to feel love lead to better parent-child relationships.

### 要約

本研究の目的は、将来私たちが大人になった時に、どうすれば子供と良い関係を築けるのか、ということ明らかにすることである。そして私たちは、この問題についてどういう「行動」をとれば良いか、というところに焦点をあてた。

調査では、対象者に親からの愛情を感じる行動を述べさせた。私達は、それらを非日常で行われるもの、日常で行われるもの、愛情を感じる行動の中でも愛情が感じ取りやすい、感じ取りにくい、に分けた。この分類とアンケート結果より、日常の行動や愛情が感じ取りやすい行動の方が親子関係が良好になることがわかった。

### 1. はじめに

幼少期における親と子どもの関係が良好なら、友人関係や勉強などのすべての事柄についてストレスを感じにくいという先行研究より、親の子どもに対する行動が子どもの精神面に大きな影響を及ぼすことがわかる。このことから、どういった行動をとれば子どもとより良い関係を築けるのかということ明らかにして、私達が将来親になったときの子育てに活かすためのヒントを探す。

### 2. 研究手法

[対象者]

高津高校78期生

[人数]

98人

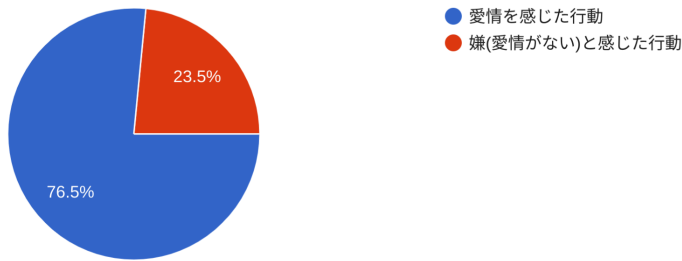
[質問項目]

- ①親の行動で、愛情を感じた行動と嫌(愛情がない)と感じた行動では、どちらがより多く印象に残ってるか。
- ②愛情を感じた行動が多い人には、なぜその行動に愛情を感じたのか、具体的にはどんな行動が印象に残っているのか。
- ③嫌(愛情がない)と感じた行動が多い人には、なぜその行動が嫌(愛情がない)と感じたのか、具体的にはどんな行動が印象に残っているのか。

### 3. 結果

- ① 76.5%が愛情を感じた行動が多いと答え、23.5%が嫌(愛情がない)と感じた行動が多いと答えた(図1参照)。

(図1)



- ②なぜその行動に愛情を感じたのかという質問では、親が「自分のためにしてくれたことだから」などの意見が最も多く、具体的にはどんな行動が印象に残っているのかという質問では、「毎日ご飯を作ってくれている」などの意見が最も多かった。

- ③なぜその行動が嫌(愛情がない)と感じたのかという質問では「嫌な思いをしたから」などの意見が最も多く、具体的にはどんな行動が印象に残っているのかという質問では子どもが自分の気持ちが親に理解されていないと感じてしまうような行動が最も多かった。

### 4. 考察

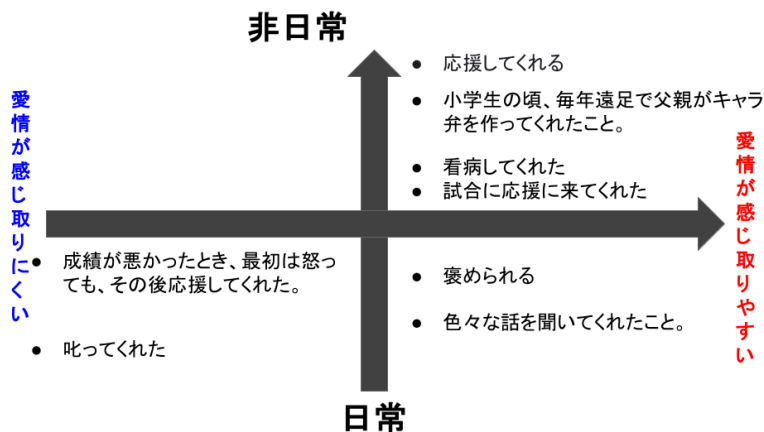
愛情を感じた行動は日常、非日常、愛情が感じ取りやすいもの、愛情が感じ取りにくいものの4つの基準をもとに分類することができると考えられた(図2参照)。そのうち高津生は日常の行動や愛情が感じ取りやすい行動のほうが、愛情を感じている人が多いことがわかった。

嫌(愛情がない)と感じた行動は子どもに対して無干渉なものよりも、一人の人間として対等に子どもと関わっていないものがほとんどである、と考えた。

愛情を感じた行動について、親が子供のことを考え、子供のために何かするという行動がほとんどだった。

愛情が感じられない行動については逆に、子どもが親から蔑ろにされていると思ってしまうような行動がほとんどだった。

図2



実験の一部抜粋した回答の分布表

## 5. 結論

ご飯を作ってあげたり、子どもの話をきいてあげたりするなど、日常的に子どもに寄り添うような行動をすれば、親と子供の関係は良好になる。日常的に愛情が伝わりやすい行動をすることで、子どもは愛されていることを自覚しやすく、親と関わりを持ち続けようとする。つまり、子どもと良い関係を築くうえで大切なことは、非日常的な行動よりも日常的に子どもと一人の人間として関わっていくことである。

## 6. 参考文献ならびに参考Webページ

澤村貫太ら(2013)『親子の愛着関係と青年期における気分状態・心身状態との関連性』